

## あけぼの会奨励賞

「お母さんを乳がんで亡くして」

大野 佳世（おおの・かよ）

32歳／主婦／東京都

「兄弟の中であなたが一番乳ガンになりやすいだろうから、気をつけなさいね。」

「この子がもし乳ガンになったら、慌てずに病院に連れて行ってね。」

十年前、主人が結婚の挨拶をしたときに、母が私たちにそう言いました。母は、二十年前に乳ガンになり、その後二度再発し克服してきましたが、三度目は...全身転移でした。それでも母は、懸命に生きようとして頑張っていました。昨年一月に五十九歳という若さで亡くなりました。声が聴きたい...話しがしたい...顔が見たい...あのときあれをしてあげていれば、これを言ってあげればと後悔ばかりが残りました。もっとお見舞いに行けば良かった...。受け入れるまでには、まだまだ時間がかかりそうです。

結婚するまでは私にとって乳ガンは近いようで遠い存在でしたが、結婚して出産してからはより身近なものに感じるようになりました。そして母が亡くなった今、私のすぐ後ろに乳ガンがいるように思います。

母は、最初も再発も自分で見つけました。自分で発見することができる乳ガン。ためらっている私に、自己検診すること、病院での検診を受けることを母が最後に教えてくれたように思います。

淋しくなったとき、逢いたくなかったときは、空を見上げて母と話しをしています。いつでも笑顔で見下ろしてくれているように感じるのです。見守り続けていきたい家族のためにも、私がしっかりとしていなくては。

お母さん...有難う。勇気を持って検診に行ってきます。